

経営発達支援計画の概要

実施者名	阿哲商工会
実施期間	平成27年4月1日～平成32年3月31日
目標	<p>小規模事業者の事業計画作成を通じて、変化する経営環境への対応と企業の持続的発展を支援し、経営力向上や海外展開を含む販路拡大、事業規模の拡大による雇用の創出を図る。また、創業支援・事業承継支援を行い、新見市の未来を背負う経営者を育成していくことにより、地域を支える企業の増加、I・Uターン起業による新たな産業の創造を図る。</p> <p>さらに、中期的な取り組みとして6次産業化支援を行い、「アグリカルチャーからアグリビジネスへ」を目指し、地域の特色を活かした新たな事業創出と地域資源を活用した商品開発と販路開拓の支援などを行う。</p>
事業内容	<p><u>I. 経営発達支援事業の内容</u></p> <p><u>1. 地域の経済動向調査</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の経済動向に関する分析結果を取り纏めた資料を作成し、管内小規模事業者に提供するとともに、事業計画策定時に活用。</li> </ul> <p><u>2. 経営状況の分析</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回・窓口相談をはじめ、事業者とのあらゆる関わりを通じて経営資源や特徴を掴み、「事業価値を高める経営レポート」作成を行う。</li> </ul> <p><u>3. 事業計画の策定支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画策定の必要性の周知と、経営の持続的発展を実現し新たな需要の獲得に必要な事業の再構築を図るための事業計画策定支援。</li> <li>創業を図る企業や、創業間もない（5年未満）企業の育成と基盤強化を図るため、他の支援機関等と連携して創業塾を開催。</li> </ul> <p><u>4. 事業計画策定後の実施支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よろず支援拠点、県産業振興財団、県連合会をはじめとした地域の中小企業支援機関及び金融機関等と連携しながら、伴走型の支援・助言を行う。</li> <li>小規模事業者経営発達支援融資事業を活用して金融面での支援を図る。</li> <li>創業後も販路開拓支援や記帳指導の強化などにより、伴走型の支援を実施。</li> <li>地域資源を活用した新たな産業の創出を図るため、6次産業化に取り組む農業者の相談・支援を行う。</li> </ul> <p><u>5. 需要動向調査</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業者の取り扱う商品・役務の需要動向について取り纏めた資料を作成し提供。</li> <li>地域資源を活用した商品や役務に関する需要動向情報を収集・分析し、展示会・商談会への出展者に情報提供して販路開拓支援を行う。</li> </ul> <p><u>6. 新たな需要の開拓に寄与する事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6次産業化に取り組む事業者の販路開拓・商品認知度向上を支援する。</li> <li>各機関が実施する海外展開を含む展示・商談会・セミナーへの参加・出展支援及びダイレクトマーケティングに関するセミナーの実施。</li> <li>小規模事業者持続化補助金の積極的な活用推進と、販路開拓の取り組みを支援。</li> </ul> <p><u>II. 地域経済の活性化に資する取り組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集客による地域活性化を目的とするイベントの開催。</li> <li>地域住民の生活を支援するコミュニティビジネスの推進。</li> <li>地域コミュニティ産業サポート事業の推進。</li> <li>にいき推奨特産品リニューアル事業計画（素案）の推進。</li> </ul>
連絡先	阿哲商工会 岡山県新見市神郷下神代 4898 番地 9 TEL 0867-92-6103 <a href="https://www.atetsu.net/">https://www.atetsu.net/</a>

## 【事業の成果・評価・見直しの結果等（平成30年度実績）】

### I. 経営発達支援事業の内容

#### 1. 地域の経済動向調査

達成度	達成・未達成の要因
H27年度に作成した、経済動向調査の概要版を、商工会の総会、理事会、各種セミナーで配布し、事業計画策定の啓発活動を行った。その結果、事業計画策定件数は平成27年37件、平成28年29件、平成29年42件、平成30年45件で合計153件行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業承継セミナー、販路開拓セミナー、各種補助金の活用により、事業計画作成事業者が順調に増加している。</li> </ul>
	<p>主な今後の予定・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに実効性のある提案を行っていくためには、従来のものに加え個々の業種に合った動向調査の必要がある。昨年度実施した住民アンケートの結果を分析し、地域経済活性化の課題を明確にし解決に向けたプランを策定した。</li> </ul>
有識者会議における今後の見直し等に関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を通じて把握した経済動向が必ずある。支援を通じて得た情報・データ分析や収集し、取り纏めたものを活用することを取り入れても良い。これが事業者の意欲喚起につながるきっかけとなる部分である。結果として業種別・課題別等のデータ収集に繋がって行く。</li> <li>・統計データとして、オープンデータが活用できることが重要である。地域の生データを事業者が加工して使用する事ができれば経済動向調査の活用が広がる。加えて、データを解り易く加工して提供することも必要であり、データの両面（生・加工）提供が求められる。これらが商工会のHP等で提供されている状況が望ましい。</li> <li>・事業承継に関する動向調査も取組の1項目として取組の概要欄に加えて頂きたい。</li> </ul>	

#### 2. 経営状況の分析

達成度						達成・未達成の要因
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営レポート作成までに至っていないが持続化補助金等のヒアリングにより事業計画書の作成は目標以上の実績値となっている。</li> <li>・目標としている件数には届いていない。引き続き目標達成に向けて取り組んでいく。</li> </ul>
支援内容	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	達成度	<p>主な今後の予定・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模事業者の経営基盤の強化が喫緊の課題でもあるので、そこに繋がるような支援を行っていく。</li> </ul>
小規模支援会計momo利用者	79	79	70	73	84.0%	
経営状況登録事業者	199	205	211	214	95.2%	
経営レポート作成件数	4	12	16	9	45.0%	
有識者会議における今後の見直し等に関する意見						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個社のデータを分析し、個社に提供する事が基本であるが、蓄積したデータから地域ごとの経営状況を集計し、そこから見える管内経営環境の分析に活用して行けばより良いものとなる。</li> <li>・経営レポート作成は、多面的に経営を考えて頂くきっかけとすることを啓発すればニーズも増えると考えられる。また経営分析、財務分析データの活用ツールとして、MOMO会計・小規模支援システム活用の有効性を再度認識して頂くことで、経営者の活用動機の強化を図りたい。</li> </ul>						

### 3. 事業計画の策定支援

達成度						達成・未達成の要因
支援内容	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き持続化補助金の活用提案がうまくいき、想定以上の取組があった。</li> <li>・連携機関との情報共有もあり、創業者の支援に結びついている。</li> <li>・市の支援策の認知度向上もあり、取り組む事業所が増加してきている。</li> <li>・補助金の取組の過程で経営計画策定が出来てきているので、良い傾向にあると考えている。</li> </ul>
セミナー・説明会開催回数	2	2	2	2	100.0%	
事業計画策定事業者数	37	29	42	45	150.0%	
うち経営レポート作成件数	4	12	16	9	45.0%	
支援内容	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	達成度	<p style="text-align: center;">主な今後の予定・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな支援先の掘り起こしがうまくいっている。この経験を来年度にも活かしていく。</li> <li>・今年度も広域サポートセンターとの連携による支援の成果が出てきているので、引き続き連携を密にとって支援を行っていく。</li> </ul>
創業塾開催回数	-	1	1	1	100.0%	
創業セミナーの開催	1	1	2	2	100.0%	
創業支援者数	5	5	6	7	140.0%	
第2創業（経営革新）支援者数	5	3	6	6	120.0%	
有識者会議における今後の見直し等に関する意見						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の事業者が経営計画を月々のアクションプランに落とし込み、毎月の達成を評価し、報告する形にし、必ず達成して行けるようにすることで収益向上に繋がれたら良いと思う。</li> <li>・補助金を活用しない方々は母数として多い。こうした方々には「計画を作ると作らないでは、こういう違いがある。作るとこんなにいい事がある。」ことを周知、啓発を図って行けば良い。</li> <li>・補助金申請以外での経営計画作成を少しずつ浸透させて行く。経営計画作成の浸透は、発達支援計画の根幹、重要事項であることから、第二期の経営発達支援計画に向けて、来年から取り組んで良い気がする。</li> </ul>						

### 4. 事業計画策定後の実施支援

達成度					達成・未達成の要因
支援内容	H27年度	H28年度	H29年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームによるサポート件数の増加など効果的な指導が出来ている。</li> <li>・ホームページ並びに、フェイスブックを連動させリアルタイムで情報発信を行った事で、幅広い層への周知を行う事ができ、件数に繋がった。</li> </ul>
周知によるフォローアップ件数	42	58	75		
	H29年度	H30年度	達成度		
	75	94	117.5%		<p style="text-align: center;">主な今後の予定・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の経営基盤の強化を目標に、事業者の業績・内容に応じた提案を行っていく。</li> <li>・この取組で基盤強化を実現した事業者の先行事例を造り、後に続く事業者のモデルとしていく。</li> <li>・引き続き多頻度の情報発信に努める。</li> <li>・事業者の経営計画内容に応じたサポート（内容・頻度）を継続していく。</li> </ul>
有識者会議における今後の見直し等に関する意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援先の事業者を、ランク分けし、支援効率向上と支援ニーズを踏まえたフォローアップを実行する。既存の計画に対するフォローアップに取り組んで行くとともに、新規の計画策定先のフォローアップにより件数が積み上がって行くといったやり方が良い。</li> <li>・阿哲商工会は計画策定件数が多く、取り組みやすい上、他の商工会より発達支援計画の実績が一步先をいっている所もあり、先行モデルとして是非取り組んで頂きたい。</li> <li>・上記フォローアップのやり方を、次年度の計画に生かし、かつ次年度執行に組み込む形で行ってもらい、阿哲商工会のみならず県連全体の先駆となる様にして頂きたい。</li> </ul>					

## 5. 需要動向調査

達成度	達成・未達成の要因
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報提供事業者 19 社</li> <li>・ 展示会・商談会展出事業者 8 社 (本年度、産業フェア未実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 販路開拓セミナーや個別の提案により掘り起しが出来ている。</li> <li>・ 創業者・第二創業者に対しても、随時情報提供を行っている。</li> <li>・ これまでの支援の経験から事業者には有益だと思われる展示会・商談会をピックアップし、参加を勧める提案が出来ている。</li> </ul>
	主な今後の予定・改善点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単に表面的な需要を知ることだけではなく、なぜ需要が増加しているのかといった背景要因などを把握し指導を図っていく。</li> <li>・ 販売戦略、事業戦略の策定を支援していく。</li> <li>・ 情報発信を行うため RESAS 等の情報を全員で共有して有効な活用が図れるように取り組む。</li> </ul>
有識者会議における今後の見直し等に関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要動向調査と土産品開発では、需要動向変化があることから、トレンドをタイムリーにとらえ、マッチした商品開発が難しいと感じている。需要動向に合わせた商品開発が必要であり、需要では首都圏なのか、海外なのかといったエリアの検証も必要である。</li> <li>・ 需要動向調査は小売り・サービス業が中心のイメージがあるが新見市内では、小売り・サービス業の比率は高くない。例えば金属加工業者の取引に繋がるような需要動向を提供している商工会は無い。業種が小売り・サービスに偏らないようにする事である。</li> <li>・ 事業所の供給能力を把握した上での調査対象・エリア、ターゲットやニーズ絞り込みが必要である。</li> </ul>	

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業

達成度						達成・未達成の要因
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出展に向けた準備. 購買側から見た魅力の訴求. 訴求ポイントの磨き方. 展示ブースの効果的な活用. より良いプレゼンテーションの実施. 成果獲得に向けた事後フォローにより、取引拡大の成果が出始めている。</li> <li>・ 海外展開においても少しずつだが、新規取引が出来ているので、成功事例を参考に出展支援等を行っていく。</li> <li>・ 同行支援が三年目になり、新たな事業者を巻き込みながら有効に活用出来ている。</li> </ul>
	支援内容	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	達成度
	販路拡大セミナーの実施	1	1	1	1	100.0%
	展示会展出支援者数	18	14	22	8	36.4%
						主な今後の予定・改善点
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商品開発においてその企画段階から専門家も交えてサポートを行い、販路を見越した商品開発に向けた事業計画の策定をサポートする。</li> <li>・ 伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、セミナー・個別相談を通じて事業者が取り組む販路開拓を支援する。</li> </ul>

有識者会議における今後の見直し等に関する意見

- ・展示会等、非常に頑張っているので引き続き行って頂きたい。とっとりおかやま館でのA級グルメフェアは、事業者にとってあまり良い収益にならないという話も聞いている。顧客ニーズ意見を聞くのも良いが、バイヤーに直接商談できる仕組みを作って頂き、活用頂けたら良い。
- ・市補助金（土産物開発）の活用にあたっては、例えば1社3回まで可能であることや、総額50万円と決めて頂き、活用拡大により市の土産物が更に良いものになればと思う。
- ・販路開拓であたって、消費者の方に食べて頂くだけでなく、バイヤー・食材取扱業者とのマッチングの部分にも主眼を置いた取組にしなければいけない。

II. 地域経済の活性化に資する取り組み

達成度						達成・未達成の要因
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政・商工団体間での情報共有が進み、支援制度の充実に繋がっている。</li> <li>・今年度は、市内では開催予定のA級グルメフェアが豪雨災害により中止となったが、東京新橋にある鳥取・岡山アンテナショップで、A級グルメフェアとして特産品等の販売・PRイベントが開催され、出展会員並びに商品の認知度向上のため出展サポートや展示ブースのアドバイスを行うなどして、販路開拓のための支援を行った。</li> <li>・地域コミュニティ産業サポート事業でのアンケートを活用した。</li> </ul>
支援内容	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	達成度	
A級グルメフェア出店社数	8	8	7	3	25.0%	
まちづくり委員会開催数	3	1	3	3	100.0%	
イベント開催数	4	4	4	4	100.0%	
情報交換会議の開催	1	10	12	12	400.0%	
コミュニティサービスにいみ参加企業数	25	25	25	25	71.5%	
						<p>主な今後の予定・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新見市の土産物開発支援事業の周知を図り、地域資源等を活用した新規商品開発や既存商品のブラッシュアップを支援していく。</li> <li>・引き続きにいみ推奨特産品協議会の設立に参加し統一した特産品認知度向上につながる取り組みを行っていく。</li> <li>・アンケートについては、新見市の中小企業振興基本条例の制定を受けて、施行後の具体施策の検討において、本調査結果の情報共有等により有効な対応に資するよう図っていく。</li> </ul>

有識者会議における今後の見直し等に関する意見

- ・地域ビジョンの策定にあたっては、事業者兼地域住民の目線で取りまとめ、市に届ける事が商工会に出来る事である。組織としての声であり、市としても扱い易く参考とし易いと思う。
- ・ワイン特区を活用した観光プランを次年度、地域活性化事業計画の中で具体的に考えて頂きたい。土産物開発や新見推奨特産品と絡め、消費拡大を図って行くといった繋がりが期待できる。サポート事業との連携を図りながら進めて頂きたい。
- ・項目1から6までを実行すれば、地域活性化に繋がるという流れの中で、商工会が出来る地域活性化がここで総括されている。地域内をどう支えて行くのか、地域内にどのような業種・店舗が必要なのかをどう誘致・育成するのかを検討したい。
- ・新見特産品に関しては需要動向と同様に第2期に向けて大きくブラッシュアップし変更を要するところである。